

# 令和4年度 研修概要

下関市立豊浦小学校

## 【学校教育目標】

自他を大切にし、共に伸びようとする児童の育成

## 【研究主題】

自ら考え、表現し合う児童の育成～振り返り・評価の充実を通して～

### 1 主題・副主題設定の理由

本校では、新学習指導要領の改定を踏まえ、令和2年度より、思考力・表現力に焦点化した「自ら考え、表現する子供の育成」として研修を行ってきた。今年度は、昨年度までの学びを生かし、自分の考えを表現することに加え、他者の考えにも傾聴し、考えを深め合う児童の姿を目指すことにした。そのような姿は、学校教育目標にもつながると考えた。よって、主題を「表現する」から「表現し合う」と一部変更し、設定した。

また、副主題について、昨年度までの2年間「～主体的・対話的で深い学びを通して～」と設定し、授業実践を中心に研修を行ってきた。しかし、副主題の設定内容が広範囲に感じられたことから、教員間で課題の認識について差があった。そのため、今年度は副主題をより焦点化し、「～振り返り・評価の充実～」と設定した。児童につけたい力を明確にして日々の授業に臨み、適宜学びを振り返ることで、主題に迫っていくことにした。

### 2 研究内容

#### (1) 主題について

主題のような児童の姿を育成するには、単に知識・技能を教授するのではなく、論理的な思考力、批判的思考力、判断力、傾聴する力を養うことが大切である。

そこで、「自ら考える児童」とは、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく解決する姿」と捉えた。また、「表現し合う児童」とは、「自分の考えを表現し、他者の考えに傾聴する姿」と捉えた。以下の4点にまとめた。

- ① 自ら課題を見つける姿
- ② 自ら学び、自ら考える姿
- ③ 主体的に判断し、よりよく解決する姿
- ④ 自分の考えを表現し、他者の考えに傾聴する姿

#### (2) 副主題について

昨年度までの2年間、副主題として研究を進めた「主体的・対話的で深い学び」は、新

学習指導要領が全面実施となった際に、児童に必要な資質・能力を育むための学びの質に着目し、授業改善の取組を活性化していくための視点として示されたものである。本校においても校内研修を中心に授業改善を行ってきた。

そのような学びをデザインしていくことに加え、児童が何を、どのように学び、何ができるようになったのか等、自身の学びの過程や変容を自覚できる場面（振り返り）を重視し、授業改善を進めることが必要になる。また、どのような児童の姿を目指すのか、つまり児童の姿をどのように評価するのかについても併せて検討していく必要がある。そこで、今年度の副主題を「～振り返り・評価の充実～」と設定し、研究してきた。

ここで、振り返りを行う際の注意点として、これまで行ってきた「まとめ」と「振り返り」の区別をしておきたい。「まとめ」は、重要な知識や授業の結果、理解したことを端的に表現したもので、教師主導の色が強い。一方で、「振り返り」は、自己言及的に自分の考えたことや気付いたこと、学びの過程を含めて表現したもので、児童主体のものである。

「振り返り」の質を上げ、主題である「自ら考え、表現し合う」児童の姿を目指していきたい。

また、振り返りの質を上げるためには、「①時間を設ける」「②振り返りに導き促す」「③振り返りをモデル化する」といった3つの視点が必要になる。

- ① 振り返りの時間を確保し、言語化して書き出す学びを積み重ねていく。
- ② 終末の振り返り【大きい振り返り】につなげるため、授業中に適宜行われる【小さい振り返り】にも目を向け、適切に評価・支援していく。
- ③ 振り返りの視点を示すとともに、理想の振り返りを児童と共有していく。

これら3つの視点を意識しつつ、児童の発達段階に応じて振り返るための手立てを講じていくことで、より質の高い振り返りを目指した。

これまで研究してきたように、大切なことは、教師が「何を教えたか」ではなく、児童が「何を学んだか」という視点である。その視点を常に忘れず、研究を深めた。

### 3 研究の視点

#### (1) 学習環境の整備

- 授業に集中できる教室環境づくり
- 多様な学習形態の工夫
- ICT機器の活用

#### (2) 振り返り・評価を充実させた授業づくり

- 振り返りを意識した授業づくり
- 評価規準の作成
- 教師の指導力向上

#### (3) カリキュラム・マネジメントの工夫

- 「学力向上プラン」を意識した年間での取り組み
- 「豊浦の学び」の活用

## 4 研究の方法

### (1) 学習環境の整備

- 学習の持ち物、学習規律（ノート書き方も含む）の確認と定着
- 5分準備の確認と定着
- 朝学の充実

### (2) 研究授業の実施（一人一授業）

- 学年を軸とした公開授業
- ブロック研修（各学年1回、ブロックごと）
- 全校授業（年1回）

### (3) 多様な公開授業

- 初任研、フォローアップ研修に関わる公開授業
- その他自主的な公開授業

### (4) 各種調査による児童の学力の分析と指導方法の改善

- 「学力向上プラン」の作成と活用、評価

### (5) カリキュラムの検討と改善

- 「豊浦の学び」の活用と評価

### (6) 異校種との連携

- 幼保小連携
- 小中連携

### (7) 自主的な研修会の実施と参加

- わくわく教師塾（市主催）
- せっさたくまの会（若手主催）
- チョコっとサロン（研修部主催）

## 5 研究の実際

### 振り返りの蓄積を生かした授業づくり

毎時間の振り返りを児童自身が次の学びに生かしたり、成長を自覚したりすることにつながるためにどのような授業を仕組むとよいのか、振り返りの蓄積を生かした授業づくりについて、学年を軸として研究を進めた。

本校では、タブレット端末の効果的な活用についても研修を進めており、日頃からICTを活用した授業づくりに取り組んでいる。振り返りの方法も従来通りのノートやワークシートへの記述だけでなく、タブレット端末も大いに活用した。このことにより、短時間で、個人の振り返りだけでなく全体で振り返りを共有することができた。また、文章表現の他に画像や動画を用いることで児童の学びを多面的に蓄積することができ、そのことが細やかな評価や児童の実態に合わせた授業改善につながった。

研究協議では、前述の2(2)の3つの視点のうち、振り返りの視点を焦点化することについて多くの意見が交わされた。振り返りの方法については様々な実践を行うことができたが、わかったことやできたこと、他者の意見との共通点や相違点、次に取り組んでみたいことなど、何を、どのタイミングで、どのように振り返らせればより質の高い振り返りとなるのかといった振り返りの視点については、今後も研修を深めていきたい。



前時までの学習内容や自己の振り返りを本時の学習に生かす（2年国語科）



何がわかったかを伝え合うことで自己の学びを深める（6年算数科）



ロイロノートを活用した選択式の振り返り（1年算数科）



児童の振り返りから学習の理解度や定着度を評価し、授業改善に生かす

## 6 成果と課題

### (1) 成果

児童が本時や単元の終わりにどのような振り返りができるとよいのかを意識したことで、単元全体を通してねらいに沿ったわかりやすい授業づくりに取り組むことができた。また、国語科や算数科を中心に研究を進めてきたが、全校の取組として他教科や領域、行事といったあらゆる場面でも振り返りを取り入れることができた。そのことにより、児童が日々多くの場面で自己の学びや成長を自覚することができ、次への意欲につながっている。それら自己の成長の自覚や意欲の高まりは、研究主題である「自ら考え、表現し合う児童の育成」の実現につながっていくと考える。

### (2) 課題

振り返りの仕方（手法）についての実践を積むことはできたが、「何を、どのタイミングで」振り返らせるとより質の高い振り返りになるのかといった振り返りの視点については研究途中である。学習内容や発達段階に応じた振り返りの視点や方法、それらの評価や生かし方について引き続き研修を深めていきたい。